ンの成績は一本平均実験区では年間最高 1.5 匹、対照区では 23.5 匹であり、はえ取紙の成績でも実験区年間最高 4.5 匹、対照区最高 34.3 匹であつて、対照区に比して格段の差が認められた。次にサシバエ成虫に対する効果は、生体カウントの成績では実験区では年間最高 13.7 対照区 27.8 匹と可成の差が見られ、はえ取りボンでは実験区最高 15、対照区で 34 匹であつたが、はえ取紙では実験区最高 27 であつたのに対照区では却つて 5.5 匹と少なくなつて居つた。此の堆肥舎を通して出来た堆肥は従来慣用の堆肥に比してその肥効は勝るとも劣らない事も証明され、堆肥舎使用による作業量の増加も僅かに週 1 時間であつた。要するに密閉堆肥舎を設置し正しく使用することによつてイエバエは略々完全に撲滅し得る確信を得たが、サシバエに対しては尚多少の研究改善すべき問題が残されて居るが、農村のはえの発生源対策として普及化に適するものと考える。

(山口県厚狭保健所)

大森式密閉堆肥舎による蠅類撲滅の集団実験：下釜勝・大利茂久・高木睦夫 Shimogama, M., Ori, S. & Takagi, M. : Field experiments of controlling the house fly and stable fly by "closed tank for animal manure"

農村でのイエバエ、サシバエを撲滅するために、32年 4 月から長崎市峠部落(10 戸)で有畜農家(7 戸)に大森式密閉堆肥舎を作らせて集団撲滅実験を行つた。その中 2 基については殺蠅数を調査した。撲滅の効果を判定するために、a.m. 11~p.m. 2 時に週 1 回、蠅格子で戸毎に屋内 3 カ所、屋外 3 カ所でカウントを取り、その中の最高 2 つの平均を各戸のイエバエ指数とし、部落については最高 3 つの平均を部落の指数とし、3 以下が良、3~5 は普通、5 以上は不良と判定することにした。堆肥舎での水死幼虫数はイエバエで 1 週目に 51,345、2 週目に 157 計 51,502、サシバエでは夫々 178,895 と 20,380 の計 199,275 で、両種の合計は 250,777 という驚くべき数にのぼつた。別の堆肥舎では 1 及び 2 週目にイエバエでは 42,148 と 267 の計 42,415、サシバエでは 74,151 と、13,490 の計 87,641 で、両種の合計は 130,056 であつて特にサシバエの少ないのが目立つたが、これは畜舎の暗さによるものと考えられる。以上の幼虫の他に舎内で前蛹、蛹及び成虫も水死しているイエバエではその数が少ない。然しサシバエでは稍多く特に晩秋から初冬の低温時に著しく、引いては堆肥の表層で前蛹、蛹として残り 2 週間後舎外へ搬出される危険である。これを防ぐた

めには堆肥を充分散水、沈圧して積み気密度を高める必要がある。蠅格子による部落の蠅指数は春秋には 5 の線を突破して必ずしも良好な成績とはいえない。この原因は堆肥舎の構造の不完全、使用の不忠実等によつて家及び時により随時に発生を許したことによる。忠実に使用した家では極めて良好な成績を収めているので有畜農家 7 戸を平均すると殆んど 3 以下に、部落全 10 戸の平均では確実に 3 以下に抑えていて充分効果があつたことが分る。次に舎内で 2 週間経過した堆肥を分析した結果、窒素分は殆んど損耗されていないことが分つた。

(長崎中央保健所、長崎県農試)

蠅類の撲滅効果判定の方法について：大森南三郎・末永敏・大利茂久・福田通男・谷川十三生 Omori, N., Suenaga, O., Ori, S., Fukuda, M. & Tanikawa, T. : A method of evaluating the control of house fly by a fly grille

イエバエの棲息密度の推定或は撲滅効果判定のために次のような構造の蠅格子を作り実際の調査の成績から次の様な使用方法と撲滅効果の判定基準を決めたが蠅取りリボンや紙での撲滅成績と比較してその判定基準が妥当であると思われ、この方法が普遍的で客観性を持ち、容易に実行出来ると思われるので広く使用される事を希望するものである。蠅格子(45 cm 角)の使い方と効果判定の基準 (1) 構造. 長さ 45 cm, 1 cm 角の棒 23 本を 1 cm 間隔にならべて裏打ちする。(2) 蠅格子によるカウントの取り方. 蠅の蟄集している中心へ格子を静かに置き 30 秒以内の最多静止数を算える。これをこの場所のカウントとする。(3) 各戸の蠅指数の出し方. 一戸について、屋内で 3 カ所、屋外で 3 カ所、計 6 カ所でカウントを取り、その内の最高 2 つの平均をその家のその日の蠅指数 (Fly index) とする。(4) 部落(集団又は実験区)の蠅指数の出し方. 15 戸内外の部落ならば、各戸の指数の内最高 3 つの平均値を、その部落のその日の蠅指数とする。(5) 部落が大きい時は、15 戸内外のブロックに分けて、各ブロック毎に上の調査を行う。(6) 調査の時刻. 午前 10 時から午後 3 時頃迄の間に行う。農村では、昼食後の時間に行うのが便利であろう。(7) 効果判定の基準. 蠅指数が 3 以下の場合良、3~5 は普通、5~10 は不良、10 以上は甚だ不良と判定する。

(長崎大・風研)